

オムロン京都太陽株式会社が担う社会的責任

北京大学学生代表

見学日時：2015年11月25日（水） 14:30－16:30

見学場所：オムロン京都太陽株式会社



見学概要

オムロン株式会社は日本の大手総合電気機器メーカーであり、その前身は熊本出身の立石一真氏により創業された立石電機製作所である。オムロンの事業にはFA、電子部品、健康医療機器、社会システム等があり、血圧計やセンサー等の商品は、現在世界でもトップの地位を築いている。

太陽の家は、障がい者が真に一人の一般市民として仕事や生活ができる場所である。同社は1965年に大分出身の中村裕氏によって創設され、その後身体障がい者の社会参加のサポートを続けるなど、これまで障がい者の社会復帰に多大な貢献をしている。

このまったく異なる2つの企業だが、1972年に同じ目標と理想により一緒になったのである。その年、両者が共同出資により重度障がい者の社会復帰のための専門工場を建設し共に運営する形で「オムロン太陽電機株式会社」が設立され、1985年には京都オムロン太陽電機株式会社が設立。「われわれの働きで われわれの生活を向上し よりよい社会をつくりましょう」という社憲の精神は今もなお引き継がれている。

2015年11月25日午後、私たち代表団はこの企業をおとずれた。わずか2時間の滞在ではあったが、解説スタッフによるPPTを使った解説や工場内部の見学、笑顔度測定技術の体験、作業スタッフとのやり取りなど身近な体験を通じて、私たちはオムロン京都太陽株式会社の担う社会的責任について感じる事ができた。



知っていますか？

問:オムロンの企業価値とは？

答:オムロンは多くの中国企業とは異なり、己の利益のみを追求してはいない。同社は終始「企業は利潤の追求だけでなく、社会に貢献してこそ存在する意義がある」という考えを実践しており、イノベーションや向上心というDNA、そして「未来に喜びと感動をあたえる」という執念を有し、さらには社会の進歩に積極的に貢献するという責任を担っている。

問:オムロンの主要製品にはどのようなものがあるのか？

答:オムロンは1933年の創業以来、発展への努力を続け、今日では世界市場においてもその名を轟かせている。当初、同社はタイマーの生産以外に、保護継電器を生産していた。この2つの製品からオムロン株式会社がスタートした。その後、時代の発展とともに、1990年に社名を商標と統一する形で「オムロン株式会社」と改めた。2012年3月期の業績は6195億円、製品はFA制御システム、電子部品、自動車電子、社会システムおよび健康医療機器等の幅広い分野で数十万種類ある。1933年5月10日の創業から今日まで80年以上の間、オムロングループは絶えず新たな社会需要を生み出し、世界をリードするセンサー・制御分野における核心技術により、他に先んじて無接点近接スイッチ、電子式自動感应信号機、自動販売機、駅の自動券売・自動改札システム、がん細胞自動診断等の製品や設備・システムを開発・生産することで社会の進歩と人々の生活水準の向上に貢献すると同時に、急速に世界でも著名な自動化制御および電子設備メーカーに成長した。

問:オムロン京都太陽株式会社ではどのように障がい者の仕事や生活を保障しているのか？

答:この問題については、以下の数点にまとめることができる。

(1) バリアフリーの業務環境構築に努める

業務環境においては、些細な不便さも強い不安や重大な危険を招くことがあるが、それは障がい者が働く会社にとっては尚のことである。同社では、工場内のエレベーターのスペース拡大やドアの開く時間の延長、可能な限り段差をなくし、2台の車いすがすれ違うことができるように通路の幅を拡大、作業スタッフの負担を減らすため作業台上の各装置を手の届く範囲に設置、また作業台も車いすに合わせた規格とし十分な作業空間を確保するなど、快適な業務環境の創造のため多大な努力を払っている。これはヒューマニゼーションを極限まで高めたものだと言える。

(2) 生活環境の安全性と快適性も非常に重要

同社では工場と生活施設を同じ敷地内に設置し、通勤が不便なスタッフ用に宿舎も設置している。スタッフの日常生活においても、医務室に看護師を常駐させ、嘱託医や産業医と連携の下で健康管理サポートを行い、スタッフ専用のユニバーサルデザインのATM機を開発し、トイレは車いすに対応した空間を確保し手すりを設置、全ての出入り口を自動ドアにして段差をなくし、各スタッフが休憩しやすいよう休憩室を広くとり、エレベーターは6台の車いすが乗れる広さを確保し、後方確認のための大きな鏡を設置、そして使いやすい工夫がされた自動販売機を設置するなど、全面的に障がい者へのケアをおこなっている。

(3) 仕事以外にも様々な活動を催している

同社ではスタッフの身体や心の健康のため、車いすマラソンや各球技クラブの活動を定期的に催している。中には国際大会にも参加したスタッフもいて、多くのドラマや映画のモデルになっている。その他にスタッフ間の親睦を深めるため発足した「むぎの会」による旅行（一泊あるいは日帰り）、サマーフェスティバル、忘年会等の活動がある。そして私たちが一番感動したのは、ひだまり土曜日やFounder's Day（オムロン創業記念日）といった全社を挙げておこなう公園の草刈りや清掃などの社会貢献活動で、より良い社会づくりのために現在も貢献を続けているということである。

感想

見学を終えた私たちは、誰もが心を打たれていた。車いすに座りながら懸命に作業をしている障がい者の方々の姿や積極的に責任を担う勇気だけでなく、同社の担っている社会的責任にも私たちは感動させられた。世界的な競争が激しくなっていく中で、企業として、私たちが共に暮らす社会のために貢献や努力を行い、多くの障がい者の方々の生活における太陽となることは並大抵のことではない。

しかしよくよく考えると、これは日本文化に受け継がれてきた非常に重要な「他人に迷惑をかけない」という点とは切り離せないものである。皆それぞれが自分の責任と義務を理解しているため、日本ではたとえ障がい者であっても学習や仕事に努力し、企業にもまた社会のため福利を充実させるという意識が生まれるのである。これには、優れた民風は優れた教育により生まれ、快適な社会環境の形成もこの点と深い関係があることがわかる。

人類に物質の充足と精神の充実をもたせるため、オムロンは新たな一歩を踏み出している。そしてこれはまだ始まりに過ぎず、素晴らしい明日を描き、喜びと感動に満ちた未来を創造するため、今日中国企業を含むそれぞれの企業、ひいてはそれぞれの人々は利益のみを追求するやり方を見直し、共に素晴らしい未来のために、いかにこれまでにない新たな価値を生み出すかを考えるべきだと思う。